



接種会場の様子

職域接種について



北海道医療大学 学長 浅香 正博

2019年12月に中国で最初に発生した新型コロナウイルス感染症は世界を巻き込んで今も猛威を振っています。新型コロナウイルス感染症はWHOにおいてパンデミックに指定され、わが国では感染症法上の新型インフルエンザ等感染症に指定され厳格な管理がなされています。新型コロナウイルス感染症は呼吸器への感染が主体でインフルエンザに比して肺炎を起こしやすい特徴を有しています。飛沫感染、接触感染が主体で潜伏期は5～14日とされています。感染予防で重要なことは、3密(密閉、密集、密接)を避け、手指の消毒や手洗いを行うことです。本学は2020年3月より全学生の講義を休講として卒業式と入学式を中止する処置をとりました。学生には、通学の際、全員がマスクをすること、感染を起こしやすい通学電車内、講義室、食堂での3密を避けること、電車内で会話を避けること、大声を出さないなどの注意事項を繰り返し伝えました。

アルバイトの機会が減り、学生生活が厳しくなってきたため、本学は大学、歯科衛生士専門学校で学ぶ全ての学生に対して、オンライン授業等の学習環境整備も含めた自宅学修支援金として一律50,000円を支給しました。

今年になって新型コロナウイルスに対するワクチンがわが国でも普及、65歳以上の高齢者に各自治体を中心になり、ワクチン接種が行われるようになりました。しかし、年齢順に行われるので学生の接種がいつになるのか見当がつかせませんでした。その最中、政府がワクチンの職域接種を行うことを決め、開始

されたのが6月21日からでした。職域接種では職場ごとにワクチン接種が年齢を問わず行うことができます。その代わりに、場所を提供し、ワクチンの打ち手の確保と問診を行う医師の確保が必要となります。即、本学は参加の申し込みを行うとともに、体育館を拠点にワクチン接種の会場作りを行いました。ワクチンが確保できたため、6月21日より本学の学生・教職員にワクチン接種を開始しました。わが国の大学では最も対応が早かった一校だったので、打ち手が少ないのではないかと懸念しましたが、歯学部歯科医師に対し看護福祉学部の看護師が講師となって筋肉注射の講習会を開いてくれました。おかげで歯科医師の打ち手は90人にも達しました。ワクチンの調剤や管理は薬学部の薬剤師が担当し、問診や注射後の経過観察は医師資格を持つ教員が担当しました。本学の特色である多職種連携が存分に発揮できたのです。わが国の職域接種で最も早かったため、開始日には10社を超えるマスメディアの取材を受けました。7月9日に第1回の接種が終了し、8月6日に第2回の接種が終了しました。学生・教職員を合わせ、90%に近い接種率でした。このことにより、本学はコロナ禍からの脱出に成功する可能性が高まったといえます。今回のワクチン接種では、本学を挙げての協体制作りがうまく機能しました。記録的な猛暑の中、ご協力いただいた教職員並びに事務職員の方々には心から感謝いたします。9月を過ぎると多くのクラブ活動が再開でき、オンライン授業のみならず対面授業も合わせて行われるようになることを期待しております。

CONTENTS

職域接種について	1
教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介	2
2021年度入試結果報告	3
国家試験結果報告	4
就職状況結果報告	5
2022年、臨床福祉学科は「福祉マネジメント学科」に名称を変更します。	6
職域接種の実施状況	7
本学のDX推進計画について	8
スポーツを支える 各学科の教員特集 Vol.1	10
OG訪問[薬学部]	11
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	